

委員会だより

## 男女共同参画委員会 10周年記念シンポジウム\*

日本鉄鋼協会・日本金属学会男女共同参画委員会委員長  
東北大学金属材料研究所；准教授  
梅津理恵

2007年に発足した日本鉄鋼協会・日本金属学会男女共同参画委員会も今年で10年を迎えました。今年度の北海道大学での秋期講演大会開催を機に、「企業・大学でのダイバーシティ推進を考える」というテーマのもと、2017年9月9日(土)に北海道大学工学部オープンホールにてシンポジウムを開催しました。前日まで秋期講演大会が催されており、日を改めての開催に参加者が集うのか心配でありましたが、当学協会以外の北大関係者や北海道の民間企業、周辺の大学・高校等に広く周知し、当日は中島英治金属学会会長をはじめ、全部で70名ほどの参加がありました。あいさつとして、男女共同参画委員会委員長より「男女共同参画」という言葉を浸透させるための活動にはじまり、女性研究者の活躍推進に向けた取り組みに着手した10年であった、とこれまでの活動に関する簡単な紹介がありました。総会員数に占める女性比率は、この10年の間に日本鉄鋼協会では約1.5から3%へ、日本金属学会では3から5%へと確実に増加しており、特に女子学生においては現時点でそれぞれ10、12%にもなったといくつかの統計結果が示され、今後は女性の活躍が具体的に「見える化」に向けての10年であってほしい、とあいさつは締めくくられました。

一人目の講演者は北海道大学女性研究者支援室室長で大学院情報科学研究科の長谷山美紀教授で、北海道大学の男女共同参画の活動、現状、今後の取り組みに関する紹介をして頂きました。女性研究者を対象にプラスワンビジット(国際的な活躍が期待される優秀な女性研究者に対する賞、国際会議参加に加えて現地の研究者を訪問する旅費を支援し、論文の執筆や共同研究につなげる)の制度や、女子学生を対象とした奨励賞の授与、また、異動してきた教員のパートナーが研究者であった場合に研究継続できる環境を確保し、キャリアアップを支援する仕組みを検討中など、進んだ取り組みが行われていることが紹介されました。

次に、二人目としてJFEスチール株式会社・人事部人事室長の近藤達哉様にご講演頂きました。24時間、3交代制により工場は常に操業されており、10年前ではほとんど女性の姿が見当たらなかった生産部門でも、現在は2.4%、総合職にいたっては6.2%と女性社員の比率が急増している現状についての話題提供がありました。さらには、少子高齢化・ライフスタイル等の変化により、性別の違いというよりは、もはや個々の状況を尊重したダイバーシティ経営が会社には



図1 男女共同参画委員会10周年記念シンポジウム当日の様子。

必要とされており、会社全体のシステムリフレッシュを行い、「誰もがもてる能力を最大限に発揮できる組織風土へ」という言葉に誰もが頷いていました。

カルビー株式会社人事総務本部・ダイバーシティ委員会委員長の新谷英子様からも会社の取り組みや現状に関してご講演頂きました。もともと、女性社員の比率は半分程度と高いにもかかわらず、2009年における女性管理職の比率はたった5%程度であったのを、現在では24%、さらに2020年には30%へ引き上げることを目標にしているという話がありました。「育児しながら仕事を続ける」から「育児しながらも活躍をする」というポリシーによる女性社員の意識改革、ならびに会社全体で多様な人材が活躍できる制度や仕組みをつくっていく取り組みが、この数値目標達成の鍵となっていることが伺えました。会議において無駄な資料は作成しない、という徹底した簡略化など、仕事は単に時間をかけるものではなく、効率化を重視しようとする雰囲気が浸透しているとのことでした。会場からも質問が挙がり、参加者の関心の高さが感じられました(図1)。

最後に男女共同参画委員会副委員長の閉会の辞よりシンポジウムは締めくくられ、盛会のうちに幕は閉じられました。

今回のシンポジウムは、日本鉄鋼協会・日本金属学会関係者以外の学協会関係者、民間企業および一般人も対象としており、幅広く周知するために多くの方々にご協力頂きましたことに感謝申し上げます。また、シンポジウムの開催に際しては、日本鉄鋼協会・日本金属学会の大会実行委員会委員、男女共同参画委員会委員、事務局等に大変お世話になりました。特に、北海道大学の池田賢一先生には、会場運営等で多大なるご協力を頂きました。この場を借りて御礼申し上げます。男女共同参画に関する活動は、ややもすれば「女性による、女性のための活動」と思われがちですが、「女性活用=男性にとってもよりよい社会」という認識のもと、社会全体で意識が高まることを切に願っております。今後も、男女共同参画委員会ではさまざまな活動を続けて参りますが、多くの学会会員の皆様にご賛同頂き、次回シンポジウム開催の際は、今まで以上に多くの方にご参加頂きたく思います。

\* 日本鉄鋼協会「ふえらむ」Vol. 22. No. 12に同時掲載。  
(2017年10月3日受理)[doi:10.2320/materia.56.711]  
(連絡先: 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1)